

○ 局別審査【企画調整局】(23. 9. 30)

1. 平清盛について

(北山議員)

神戸が観光都市としてここまでの地位を築けたのは、NHKドラマの「風見鶏」の果たした役割が大きかったと思っている。今回は、来年の大河ドラマ「平清盛」を、第2の「風見鶏」とする為に、神戸市がどのように取り組んでいくかが重要である。神戸市の将来がそこにかかっているというぐらい大事に取り組んでいただきたい。

昨日、市長が清盛の父に扮したことをテレビで知った。我々議員には、何も連絡が入ってなかった。ハーバーランドのドラマ館や兵庫の歴史館など、多くの取り組みを行っているが、長田にも清盛に関連する史蹟などが多く存在する。そこへサテライトを設置するなどということでは、話にならない。

そこで提案だが、青森では「北前船」を再現し、当時寄港していた全国の港を回り、青森の観光振興に寄与しているとのことである。それぞれの寄港地で大変なブームが沸き起こっていることをご存知だと思う。神戸でもこれに倣って、清盛が日宋貿易で使っていた船を再現するべきと考える。

関西一円、瀬戸内海一円は、一の谷の合戦、水島の合戦、壇ノ浦の合戦、志度の合戦、室山の合戦、三草山の合戦など、清盛の碑が多く残っている。清盛ゆかりの地である自治体とタイアップし、市民の協力の下に進めていくべきである。青森の「北前船」は150トンの木造船であり、費用は2億円かかっている。にもかかわらず、青森市は1円も費用を出していない。船の建造は、市民からの寄付によるものであった。神戸市もこれに習って、市民参加の下、進めていくべきである。

企画調整局がやるのではなく、調整をして、産業振興局やみなと総局と十分、協議をして進めていただきたいが、その見解を伺いたい。

(企画調整局長)

清盛隊の案内が各市会の先生方についていたかどうかは存じていないので、お許し賜りたい。ご指摘の青森の「北前船」は、行財政局でも質問されたようだが、民間からの寄付により約2億円をかけ建造したものであり、平成23年7月から8月にかけて航行されたものである。北前船のかつての寄港地である14港に寄港したと聞いている。日宋船の模型が海洋博物館にあるようだが、木造船をクルーズ客船として航行する場合には、安全構造上の問題、建造コストや管理コストなど維持管理上の問題など多くの課題があると認識している。また、「北前船」は、観光客を乗せて航行はしていないようである。人を乗せて清盛のコースを回る瀬戸内クルーズについては、難しいのではないかと考えている。「日宋貿易船」の再現は、大変、夢のある企画である。地元の市民団体や民間事業者が出てくれば、産業振興局、みなと総局などとともに応援していきたい。

(北山議員)

清盛船の実現について、難しいと言わずに、費用については神戸市だけで負担せずに、岡山市

や広島市、下関市、香川県にも呼びかけて、市民みんなでやろうという声を出させるように、盛り上げて欲しい。誰かがやって盛り上げてくれれば応援する。ということではなく、局長には、誰もやらないのであれば、企画がするというぐらいの気持ちで、行動力を発揮してやっていただきたい。

2. 国際戦略総合特区について

(北山議員)

本日、関西全体で国際戦略総合特区を申請するとされているが、神戸には元々力を入れてきた医療産業都市に加え、理化学研究所、さらには世界一のスーパーコンピュータなどの資源がある。今後、特区認定に向けて、協議会を通じて国等への要望など様々な活動を展開し、規制緩和や財政支援等の実現につなげて欲しいが、神戸市が埋没してしまうのではないかと心配をしている。そのような心配はないという声を聞かせて欲しい。

(本部長)

特区認定を受けてからが勝負だと考えている。昨年度、国に対して提案した時に申し上げた点であるが、近年アジア諸国のライフサイエンス分野における追い上げが急である。シンガポールは有名であるが、中国でも上海近辺や北京近辺、あるいは韓国の大邱、仁川、ソウルがライバルであるが、神戸市がやるからにはアジア No.1 を目指したい。そのための取り組みについては、関西の提案は拠点ごととなっており、神戸市は兵庫県の播磨科学公園都市と組んで1つの拠点となっている。縣市一体となって、規制緩和も含めて事業を行う。世界一の京速コンピュータと、世界一の「スプリング8」、あるいは「SACLA (さくら)」といったような世界一の科学研究施設を活用して、ライフサイエンスを振興できるというのは、神戸市だけではないかと考えている。

(北山議員)

関西の国際総合戦略特区ができた時に、神戸市の存在感というものを、しっかりと出して欲しいという主旨であり、これからも応援をしていきたいと考えている。是非とも頑張っていたきたい。